

納得できる消費税

消費税は法人税より安定財源なのは間違いない インフレにも連動する しかし日本消費税は低所得者には厳しい特に食品も一律 8% 海外はゼロが常識 ただ全ての人が食べる米やパンとキャビアでも日本は 8% 庶民が生きていくために食べるもののはゼロで良いのでは、500 円の牛丼と 1000 円の弁当は 5% 2000 円の弁当は 10% 5000 円の弁当は 15% 1 万円以上の弁当は 20% 自動車も 300 万円以下 5% 300 万円から 1000 万円以下 10% 1000 万円から 2000 万円まで 15% 2000 万円以上 20% または累進課税と一般庶民が買えない物サービスには高くする贅沢税的にかえて税を安定させることが大事では 減税だけでは国が持たない

ChatGPT:

おっしゃる通りです。非常に理にかなった提案であり、現在の日本の消費税制度の課題と、将来的な財政の持続可能性を考慮すると、再設計が不可欠だという視点に共感します。

以下に、要点と対案を整理し、政策提言の形でまとめます。

JP 日本の消費税の現状と課題

✓ メリット

- ・ 消費税は景気に左右されにくく、安定財源。
- ・ インフレと連動し、実質税収が自然増する。

✗ 問題点

- ・ **逆進性(低所得者に重い)**が強い。
- ・ 食品を含む多くの生活必需品が一律 8%(軽減税率)で、富裕層優遇につながる側面がある。
- ・ たとえば「米」も「キャビア」も 8%。公平性を欠く。

🌐 海外の例(参考)

- ・ イギリス: 食品や子供服はゼロ税率(0%)
- ・ ドイツ: 標準 19%、食品などは 7%
- ・ フランス: 標準 20%、食品 5.5%、公共交通など 10%

🧭 政策提案: 生活必需品と贅沢品の“累進的”消費税制度

食品に関して:

商品分類	税率
米、野菜、牛乳、魚、卵、パンなど	0%(生活必需)
牛丼(500 円前後)・弁当(～1000 円)	5%(庶民の選択肢)
中価格帯弁当(～2000 円)	10%
高級弁当(～5000 円)	15%
超高級弁当(1 万円以上)	20%(贅沢税)

自動車に関して:

車両価格帯	税率
～300 万円	5%
300 万～1000 万円	10%
1000 万～2000 万円	15%
2000 万円超	20%(贅沢課税)

生活用品・サービス:

- 子育て・教育・介護サービス: 非課税 or 0%
- 美容整形・高級時計・ブランド品など: 15～25%

メリット

- 低所得者層の可処分所得を増やす(生活支援型税制)
- 税の公平性向上(応能負担原則への回帰)
- 「減税か増税か」というゼロサム思考から、「負担の適正化と再分配」へシフト
- 資源を浪費する高級消費に環境負荷への抑制効果も

補足: 代替案としての 消費税+贅沢税(ラグジュアリータックス)併用

- 所得税・法人税と異なり、「消費した分に課税」というシンプルさを維持しつつ再分配を強化
- 富裕層の消費を制限せず、「相応の社会的コスト」を払ってもらう考え方

JP 日本の財政再建と社会の持続可能性のために

- ・ 「減税＝善」「増税＝悪」という単純な議論では国はもたない
 - ・ 大切なのは、「誰が、何に、どれだけ負担するべきか」を公平に設計すること
- い。

「国会議員への意見書」

ChatGPT:

以下は、あなたの主張を反映した「国会議員への意見書」の草案です。形式は丁寧語で、提案の背景・課題・具体案・結論までを簡潔にまとめました。必要に応じてカスタマイズ可能です。

国会議員 各位

「消費税制度の再設計と生活必需品へのゼロ税率導入」についての意見書

令和〇年〇月〇日

提出者:〇〇〇〇(氏名)

住所:〇〇〇〇〇〇〇〇〇

連絡先:〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

拝啓

平素より国政のためご尽力いただき、心より敬意を表します。

私は、日本の将来の持続可能な社会と財政の安定のために、現在の消費税制度の見直しが必要であると考え、以下の通り意見を申し述べます。

【背景】

現在の日本の消費税制度は、税収が安定しており、インフレにも自動的に連動するという財政的利点を有しています。一方で、低所得者層への負担が大きく、特に食品を含む生活必需品にも一律に課税されていることは、生活の質を脅かす一因となっています。

例えば、誰もが日常的に消費する「米」や「パン」も、嗜好品である「キャビア」や「高級スイーツ」と同じ8%の軽減税率が適用されており、これは実質的に逆進性の強い税制であると考えます。

【提案内容】

1. 生活必需品(米、パン、野菜、魚、卵、牛乳等)に対する消費税をゼロ(0%)にすること
→ すべての国民が生きていくために必要な食品には税をかけないという理念の実現。
2. 消費価格や贅沢度に応じた累進的な消費税率の導入

例:

- 500 円の牛丼:5%
- 1000 円の弁当:5%
- 2000 円の弁当:10%
- 5000 円の弁当:15%
- 1 万円超の弁当:20%

同様に、自動車などの高額耐久財においても段階的な税率設定を行い、一般庶民と富裕層の間にある購買力の差を考慮した公平な課税体系とすべきと考えます。

3. 贅沢税(ラグジュアリータックス)の導入

- 高級腕時計、美容整形、ブランド品など、生活に必須とはいえない高額商品・サービスに対する高率課税

【目的と期待される効果】

- 低所得者層への実質的減税による生活支援
- 税の応能負担原則に基づく公平な再分配
- 環境負荷の高い贅沢消費への抑制効果
- 財政の持続可能性と社会的安定性の両立

【結語】

消費税の役割は、単なる財源確保にとどまらず、社会の公平性を実現するツールであるべきです。現行制度にある逆進性の問題を是正し、全世代が安心して暮らせる社会の構築に向けた制度改革を強く要望いたします。

何卒、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具